

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター
令和3年度 年 報



はじめに

北海道の東部に位置する釧路地方は、釧路湿原と阿寒摩周の二つの国立公園やラムサール条約登録湿地等、雄大な自然環境に恵まれた地域です。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林の特徴を踏まえて、森林環境教育等に携わる教育関係者、ボランティア団体・地域住民、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、森林ふれあいや自然再生に関する行事が中止となったものがありましたが、この度、主な活動内容がまとまりましたので、ご覧下さい。

目 次

	頁
森林環境教育の取組み	・・・1
【学校林活動】	
地域との連携・普及啓発等の取組み	・・・4
【地域との連携】【普及啓発の取組み】【広報活動】	
自然再生・生物多様性保全の取組み	・・・7
【雷別ドングリ倶楽部】【野生生物調査】【釧路湿原自然再生協議会】	
活動区域及び所在地	

森林環境教育の取組み

【学校林活動】

「標茶町立中茶安別小中学校」は、標茶町の市街地から南東約 11km の中茶安別地区に所在し、児童・生徒数は約 20 名の小規模校で、小学校と中学校が併設されています。

学校林（愛称「るんるんフォレスト」）は、同校の西方約 2 km に位置し、森林内には案内板・林道・遊歩道・樹名板・巣箱・ツリーハウス等が整備されており、同校が策定した「森林環境教育年間指導計画」により、様々な自然体験学習を実施しています。また、同校は開校間もない昭和 6 年から現在まで、植樹活動に取り組むとともに、緑の少年団活動を通じて各種催しに参加する等、積極的に外部との交流を行っており、これまでの緑化推進の功労と森林環境教育の実践が認められ、平成 31 年に「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

当センターは、平成 18 年度から学校林活動に携わっており、令和 3 年度は春と夏及び秋の 3 回、体験学習等の活動を企画・支援しました。

春の学校林活動 5月24日（月曜日）

るんるんフォレストで昨年度は中止となった活動を、新型コロナウイルス感染症対策のため、全員マスクを着用し、今年度は実施することが出来ました。

まず始めに標茶町森林組合が「植樹」、当センターが植栽木を野生生物（エゾシカ・ユキウサギ等）の食害から保護するため「保護管（ツリーシェルター）の被覆」について説明した後、3 班に分かれて植樹、保護管の被覆を行いました。

児童・生徒は各々にスコップと苗木を持ち「ミズナラ」「エゾヤマザクラ」「カラマツ」の 3 種・合計 100 本を慣れた手つきで植栽している頼もしい姿を見ることが出来ました。また、保護管の被覆については、上級生が下級生に被覆方法等を上手に教えて、綺麗に保護管の被覆まで終わらせることが出来ました。

当日は、マスクをしていることもあり、少し息苦しい中での活動になりましたが、元気いっぱいの生徒達の活躍により無事に活動を終えることが出来ました。今回の活動で植樹した苗木が立派に成長し、中茶安別小中学校の伝統がこれからも続いていくことを願っています。



▽植樹の様子



▽保護管を被覆する様子

夏の学校林活動 9月3日(金曜日)

今回の活動は、毎年実施している中茶安別小中学校林のるんるんフォレストで、ヒグマがでたことに伴い、学校内での実施となりました。

まず始めに、食物連鎖について学びました。食物連鎖についての学習をする上で、楽しみながら学習してもらうため、捕食者と被食者の関係性について意識してもらうネイチャーゲームである「コウモリとガ」を実施しました。

児童・生徒は、コウモリ役とガ役になりきって「コウモリ!」「ガ!」と大きな声で楽しみながら学習していました。

その後は、小学1年から小学4年生までを対象に「雨水の冒険(緑のダムについて)」と「森林クイズ(低学年Ver)」、小学5年から中学3年生までを対象に「森林の機能について(水源涵養機能)」と「森林クイズ(高学年Ver)」を2箇所に分かれて実施しました。



▽コウモリとガを実施する様子

それぞれパワーポイントで実施して説明を行いました。特に森林クイズ(次の足跡のうちヒグマの足跡はどれでしょう。等)では正解を発表する度に、児童生徒の一喜一憂する声が室内に響き渡るなど、楽しみながら学習してもらえたのではないかと思います。

今回の学校林活動は学校内での実施となりましたが、次回の秋の学校林活動は学校林で実施できることを願っています。



▽森林クイズの様子(低学年Ver)



▽森林クイズの様子(高学年Ver)

秋の学校林活動 11月1日(月曜日)

今回は、校庭及び校舎内で、秋の学校林活動が開催されました。

1時限目は、「校庭の樹木を見てみよう!」と「樹木の種のおはなし」を実施しました。

始めに、児童生徒全員で校庭を歩きながら、学校の周りの樹木について説明を行いました。子どもたちは、樹木に実際に触れながら、観察を進めていきました。

続いて、体育館へ移動し、樹木の種について学習を行いました。種の形状の違いや、子孫を残す木々たちの工夫について説明し、実際に樹木の種や幹の標本に触れ

てもらふことで、理解を深めてもらいました。

2 時限目は、小学 1 年生～小学 4 年生（A 班）と、小学 5 年生～中学 3 年生（B 班）の 2 班に分かれ、グループ別の学習を行いました。

まず、それぞれの班で、「私たちのまわりにいる動物たち」について、学校林や国有林に設置した自動撮影カメラが捕らえた野生動物の写真を見てもらいながら、自分たちの周りにはいる動物について知ってもらいました。

続いて、A 班では「もくざいのひみつ」を、B 班では「木の用途、使われ方」を実施しました。パワーポイントで作成したスライド画像を見てもらいながら、木材の使われ方や効用等を説明することで、森林のことを幅広く知ってもらえたのではないかと思います。

今回の活動を振り返り、児童生徒からは、「ドングリ拾った、見て見て！」と元気な声を掛けられたり、「知らなかったことのお話しが聞けて勉強になりました。」等の声があり、森林のことに興味を持ちながら学んでもらえたようです。また来年、春の学校林活動で子どもたちの元気な姿を見ることを楽しみにしています。



▽校庭で樹木の説明を聞く様子



▽樹木標本を観察する様子



▽森林の動物について学習する様子



▽木の用途について学習する様子

ニツリーづくり（授業参観で親子で木工クラフト） 12月9日（木曜日）

標茶町立中茶安別小中学校で、小学 1 年生～6 年生の 15 名を対象に、木工クラフト「ミニツリーづくり」を実施しました。

この活動は、11 月に同校で開催した秋の学校林活動で木工クラフトの作品を紹介したところ、学校側から「木の材料を使ったミニツリーの制作」について相談が

あり、小学校の3・4時間目の授業として実現したものです。

当日は、授業参観日ということもあり、教室が密にならないよう、1年生と3～6年生で教室を分け、当センターが制作指導を行いました。

保護者の方々が見守る中、子どもたちは、マツボックリやドングリ、木の枝等の森林の恵みを自在に組み合わせて、「ミニツリー」や「森林のいきもの」等、素晴らしい作品を生み出し、また、親子で作品づくりに取り組む姿もあり、教室は、笑顔あふれる和気あいあいとした雰囲気にも包まれていました。

限られた時間での活動でしたが、皆、次々とアイデアが湧き出すのか、手を止めることなく作品づくりに取り組む子どもたちの姿を目の当たりにし、発想力の豊かさにただただ感服するばかりでした。

授業を参観していた保護者からは、「ネットで木工クラフトの動画などを見たことがあります、実際に作ったことが無かったので、子どもと一緒にできて良かったです。」や「子どもたちが自由な発想で取り組んでいるのが良いですね。」との声がありました。

この活動で作り出した作品が、各家庭での楽しいひとときを演出する一助となり、木や自然への興味を深めるきっかけになれば、大変うれしく思います。



▽活動の様子（小学1年生）



▽活動の様子（小学3～6年生）

地域との連携・普及啓発等の取組み

【地域との連携】

ふれあい木工クラフト 5月1日（土曜日）～5月2日（日曜日）

4月29日（木）～5月5日（水）、の7日間、釧路市こども遊学館（釧路市幸町）で、GW イベント「木木ひろば」が開催されました。

期間中、こいのぼりを作ってあそぼう！等の様々な催しが行われ、当センターからは、イベント中盤の5月1日～2日（土・日）の2日間「ふれあい木工クラフト」を開催しました。

当センターは、こども遊学館のスタッフとボ



▽木工クラフトづくりの様子

ランティアの皆様にお手伝いいただき、マツボックリや木の枝・輪切りの木等の森林の恵みで木工クラフトづくりを行いました。

当日は、小さなお子さんや大人の方も熱中して木工クラフトを楽しんでおり、見本に忠実な作品や個性的な作品等を作っている姿が見られました。参加者の方々からは「楽しい！」や「かわいい！」等の嬉しい声が飛び交っていました。



▽完成した作品

新型コロナウイルス感染症予防のため、机の数も少なかったのですが、2日間で139名もの参加があり、親子や友達同士で木工クラフトづくりに熱中する様子が見られる等、用意した席がなかなか空かない程の大盛況となりました。

企業との協働による植樹 10月5日(火曜日)

雷別地区自然再生事業地の笹覆い地(標茶町雷別国有林)で、「企業との協働による広葉樹の森林づくり」を行いました。

この活動は、札幌市に支店を置く企業が、社会貢献活動の一環として、平成29年度から当センターと協働し、雷別地区自然再生事業地で行っている自然再生の取組みで、今回で第4回目の開催となります。

今回の活動には11名が参加し、雷別地区の郷土樹種である広葉樹(ミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、カツラ)140本を植樹し、植栽木をエゾシカやエゾユキウサギの食害から保護するため、保護管(ツリーシェルター)の被覆を行いました。



▽植樹の様子

当日は、低気圧の影響による降雨の心配がありました。参加者一人ひとりの思いが通じたのか、作業中は雨に見舞われることもなく、時折、曇り空からうっすらと太陽の光が差したりするなど、活動しやすい気候となりました。

参加者が集合し、まず始めに、企業の代表者から開会のご挨拶をいただき、続いて、当センター職員から雷別地区自然再生事業地の概要と作業に当たっての注意事項を説明しました。



▽保護管設置の様子

その後、参加者は、植樹班と保護管組立班に分かれ、それぞれの班で当センター職員による作業指導を受けながら森林づくり活動に取り組みました。

参加者の約半数がこの活動の経験者ということもあり、皆さん手際良く作業を進められ、

想定よりも早く苗木の植付けが終わりました。

休憩の後、全員で保護管の組立てと設置を行い、お昼前には植栽木への保護管設置が全て完了しました。

【普及啓発の取組み】

国 有林若手職員対象の OJT(植樹作業) 6月23日(水曜日)・28日(月曜日)
釧路湿原上流域に位置する雷別地区自然再生事業地(標茶町雷別国有林)で、根釧西部森林管理署若手職員による広葉樹の植樹を行いました。

この取組みは、6月に当センターで計画していた植樹イベントが新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となったことから、この代替として、根釧西部森林管理署と連携し、若手職員対象の OJT として実施したものです。

23日は10名、28日は6名の参加があり、2日間で広葉樹の苗木160本(ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ、カツラ各40本)の植樹とともに、植栽木を野生生物の食害から守るための保護管(ツリーシェルター)を設置してもらいました。

両日とも、気持ちの良い青空が広がる絶好の植樹日和となり、若手職員達は、当センター職員の指導のもと、植樹や保護管の設置に熱心に取組み、心地良い汗を流していました。

植樹の経験が無い職員もおり、使い慣れない鋤を使っただけの植樹は大変だったようですが、「勉強になり良い経験をさせてもらいました。」「意外に大変で疲れしました。」等の声があり、作業終了後は、皆、充実した表情を見せていました。

今回の活動は、雷別国有林における自然再生の取組みについて、若手職員に理解を深めてもらう良い機会となり、当センターにとっても有意義な活動となりました。



▽自然再生の取組みについて説明する様子



▽植樹の様子

【広報活動】

当 センターは、イベントのご案内や活動状況等について、ホームページと広報誌「飛鶴の森林から」で情報発信に努めており、森林環境教育や自然再生の取組み等を掲載していますので、是非、ご覧下さい。

ホームページ (https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html)

飛鶴の森林から (https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/letter/index.html)

自然再生・生物多様性保全の取り組み



【雷別ドングリ倶楽部】

「雷別ドングリ倶楽部」は、高齢級のトドマツ人工林が立ったまま枯れてしまう気象害に遭い、笹地となった雷別国有林（標茶町雷別）をフィールドとして、平成19年7月から「広葉樹の森林づくり」（森林再生）等に取り組んでいるボランティアの方々の集まりです。今年度は17名で、森林づくり活動等を3回行いました。



広葉樹の森林づくり 6月23日（水曜日）

新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止とさせていただきました。

広葉樹の森林づくり 10月13日（水曜日）

雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別国有林）で、第2回「雷別ドングリ倶楽部」を開催しました。

この会は、高齢級のトドマツ人工林が気象害によって立ち枯れし、笹地となった箇所が広がっている雷別国有林をフィールドとして、平成19年7月から当センターと協働で森林再生（自然再生）に取り組んでいるボランティアの方々の集まりです。

今回の「広葉樹の森林づくり」活動には、会員8名が参加し、ミズナラ・ヤチダモ・ハルニレ・カツラ計100本の植樹と共に、植栽木を野生生物の食害から守るため、保護管（ツリーシェルター）の被覆を行いました。

参加者は、当センターから作業内容等の説明を受け、青空が広がる気持ち良い秋晴れのもと、鍬やスコップを手に植樹に取り掛かりました。準備した苗木は1時間程で植え終わりましたが、笹の根が密集していて、植穴を掘るのに苦労された方が多かったようです。

その後、昼食の時間まで保護管の組立てを行い、午後からは、完成した保護管を植えた苗木に被覆していきました。皆さん手慣れた様子で作業を進められ、予定より早く保護管の設置が完了しました。

森林づくり活動終了後には、前年に雷別ドングリ倶楽部の活動で植樹を行った箇所と、その周辺の様子を見学しました。会員からは、「毎回少しずつの植樹でも、こんな広範囲の森林づくりにつながるんですね。」との感想があり、森林再生の取り組みが着実に進んでいることを実感していただけたようでした。

最後に、当センター所長から、「植樹はSDGsの観点から大変意義のある活動です。」との挨拶



▽植樹の様子



▽前年の植栽箇所の説明を聞く様子

挨拶があり、皆さん充実した表情で会場を後にし、帰路につきました。

厚岸樹木園見学 10月20日（水曜日）～深まる秋を満喫～

厚岸町愛冠の道立自然公園内の道有林にある「厚岸樹木園」及び隣接する「緑のふるさと公園」で第3回「雷別ドングリ倶楽部」を実施しました。

この会は、高齢級のトドマツ人工林が気象害によって立ち枯れし、笹地となった箇所が広がっている雷別国有林をフィールドとして、平成19年から当センターと協働で森林再生に取り組まれている森林ボランティアの方々の集まりです。

会で植樹と併せ根釧地域の森林の名所を巡る活動計画がありコロナ禍もあって実施が危ぶまれましたが予定を若干延期し行うことが出来ました。

当日は、会員9名が参加し、雨が心配されましたが始めに樹木園を訪れ針葉樹と広葉樹が入り混じった天然林の中に、道内樹種53種のほか、道外樹種16種、外国樹種13種の約800本の樹木をセンター職員の名（迷？）解説を交え散策しました。

参加者からは、「いろんな樹種が見れてうれしい楽しかった」、「凶面のとおり樹種が植えられていて珍しい、貴重ないいものを見せてもらった」などの声があり満足されていました。

次に、緑のふるさと公園で木工の作品が展示され工作体験も出来る「厚岸町森林センター」、高さ28mの「樹海観察塔」（晴れた日は厚岸市街や太平洋も一望）も見学しました。その後、昼食箇所も兼ね、道の駅厚岸コンキリエに立ち寄り、厚岸の味覚を味わう方やお土産を買われた方もおられました。

最後に、当センター所長から、「今年度の活動はコロナ禍もあり中止となった行事もありましたが、来年度は大丈夫だと思います。より充実した内容で計画しますので是非ご参加のほどを」との挨拶があり、皆さん深まる秋を満喫され帰路につきました。



▽樹木園での説明の様子



▽樹海観察塔展望台

次年度の計画を検討 2月9日（水曜日）＜書面会議へ変更して実施＞

第3回目の活動は、新型コロナウイルス感染症の拡大及び予防の観点から、書面会議へと変更して行いました。事前に会員の皆様に今年度の活動を振り返る活動状況の報告の冊子や、次年度の活動計画（案）など資料をお送りし、ご意見等をお聞きするという形をとりました。

会員の方々からは「植樹活動を増やしてほしい。」や「自然観察を増やすのは森林再生が主だと思うので本来の主旨からそれるのでは。」とか「私たちの活動をマスコミにプレスリリースするのは是非実施して欲しい。」等のご意見があり、次年度の計画に検討させていただくこととしました。

【野生生物調査】

この調査は、撮影頻度という量的なデータに基づいて、中大型ほ乳類の生息動向を探る試みで、赤外線感知装置付きのデジタル式自動撮影カメラを道路沿いに設置し、野生生物が装置の前を通ると24時間、自動的に撮影されます。

昨年度から当センターでは、7月と9月に雷別国有林の5箇所と標茶町立中茶安別小中学校の学校林の1箇所の計6箇所で、撮影やデータ収集等を行いました。当該調査箇所では、アライグマ等の生態系に影響を及ぼす野生生物は撮影されていませんが、久しぶりにヒグマが撮影されたところでした。今後もこの調査を継続し、森林の変化や野生生物の生息動向を注視していきたいと考えています。



▽コウモリ（令和3年7月・雷別 P1）



▽エゾシカ（令和3年7月・雷別 P2）



▽エゾタヌキ（令和3年9月・雷別 P4）



▽ヒグマ（令和3年9月・雷別 P5）

【釧路湿原自然再生協議会】

森林再生小委員会「第21回」 11月12日（金曜日）

森林再生小委員会では、森林の再生（野生動物の生息環境修復を含む）に関する実施計画とその実施状況、モニタリング結果等を検討しています。

当日は、当センターが取り組んでいる「雷別地区自然再生事業」と環境省釧路自然環境事務所の「達古武地域自然再生事業」について、本年度の取組状況や次年度の予定を説明し、意見交換を行いました。



▽小委員会の様子

釧路湿原自然再生協議会「第28回」 3月16日（水曜日）

釧路市観光国際交流センターを運営会場として、釧路湿原自然再生協議会が開催されました。

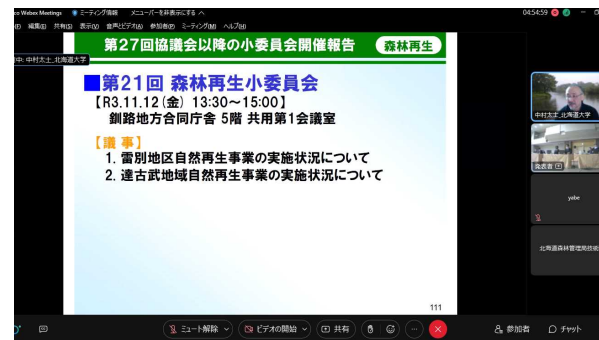
今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、従来は対面方式での開催でしたが、初めてWeb併用での実施となりました。

当日は、協議会構成員の公募結果について、新規で個人6名の応募があり、第10期の構成員が総勢148名となったことが報告されるとともに、協議会の収支報告や各小委員会から開催報告がありました。

当センターは、森林再生小委員会の開催結果のうち、雷別地区自然再生事業における森林再生の取組状況や次年度の予定を報告し、意見交換を行いました。



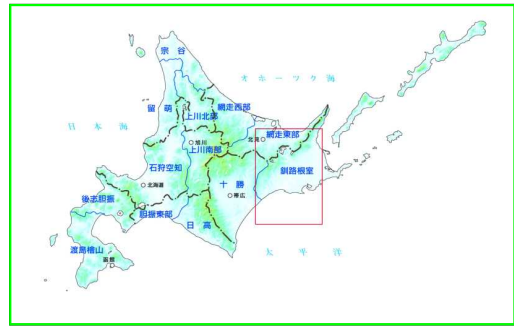
▽協議会の様子



▽協議会でのWeb会議の画面

活動区域及び所在地

当センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林（釧路市・釧路町・厚岸町・浜中町・標茶町・弟子屈町・鶴居村・白糠町の1市6町1村）が主な活動区域です。



林野庁 北海道森林管理局

くらしを育む・国有林 <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/index.html>

釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【TEL】0154-44-0533 【FAX】0154-41-7305

https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html



表紙：標茶町立中茶安別小中学校「春の学校林活動」における植樹や保護管被覆等の様子。詳細は1頁をご覧ください。